

科目名	観光環境研究演習 I			担当教員：新垣 裕治	
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス：y.arakaki@meio-u.ac.jp	
研究室電話番号：0980-51-1081					
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	3	研 202	火 (4 時限)・木 (2 時限)

1. 授業の概要

新たな観光の分野としてエコツーリズム (Ecotourism) が世界的に注目を浴びている。日本では '90 年になり一般的に使われるようになってきた用語で、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。沖縄県では、1996 年に日本初の西表島エコツーリズム協会が設立、その後 '99 年には日本で 2 番目の東村エコツーリズム協会が設立され、エコツーリズムの取組みが比較的早くから起こった先進地域と捉えられている。しかし、現状としてはエコツーリズムの導入 (エコツアー実施) による環境の悪化等様々な問題が顕在化し、必ずしもいい状態であるとは言えない。本演習では、このような様々な現状の分析や課題・問題を解決するための調査研究を主に環境の側面から行うことを目的として行われる。

2. 到達目標

エコツーリズムの現状について理解を深めるとともに、現状の課題 (テーマ) の把握し研究に繋げていく。

3. 授業の計画と内容

【前期】

第 1 週 オリエンテーション

第 2 週～7 週 研究テーマの検討及び研究計画作成

第 8 週 前期中間まとめ・発表研

第 9 週～14 週 研究テーマの検討及び研究計画作成

第 15 週 前期期末まとめ・発表研 (課題テーマ及び研究計画の決定)

【後期】

第 1 週 オリエンテーション

第 2 週～7 週 研究計画及び実施

第 8 週 後期中間まとめ・発表研

第 9 週～14 週 研究計画及び実施

第 15 週 後期期末まとめ・発表研 (研究の中間発表)

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

「エコツーリズム さあ、はじめよう！」日本交通公社 1500 円

「地域からのエコツーリズム」学芸出版 「エコツーリズム教本」平凡社

「エコツーリズムの世紀へ」日本エコツーリズム協会

「Ecotourism A practical guide for rural communities」Land Links 等

5. 準備学習

参考文献等を読む。沖縄に関することが研究対象になるので、特に、沖縄の事情については精通しておく。

6. 成績評価の方法

研究発表：60 点

活動状況 (課題への取組の積極性)：40 点

*2/3 以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。

7. 履修の条件

「エコツーリズム特論」を受講すること。エコツーリズムに於いて理解をしていること。

8. その他

特になし。

科目名	観光環境研究演習 I			担当教員：李 鎮榮	
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	5	研 213	火・金 15:00~17:00

1. 授業の概要

論文の書き方はもちろん、論文調のフォーマルな文の書き方について指導していく。演習なので「論文」が生産できるように指導していく。

2. 到達目標

論文生産能力を養ってもらう。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 演習の概要・オリエンテーション
- 第 2 週 論文のタイトルのつけ方：自然科学と人文科学
- 第 3 週 論文のタイトルの作成 1
- 第 4 週 論文のタイトルの作成 2
- 第 5 週 論文のタイトルの作成 3
- 第 6 週 論文の構成要素と実践 1
- 第 7 週 論文の構成要素と実践 2
- 第 8 週 論文の構成要素と実践 3
- 第 9 週 序文の構成要素と実践例 1：修論中間発表会練習
- 第 10 週 序文の構成要素と実践例 2：修論中華発表会練習
- 第 11 週 序文の構成要素と実践例 3
- 第 12 週 序文の構成要素と実践例 4
- 第 13 週 序文の構成要素と実践例 5
- 第 14 週 序文の実践 1
- 第 15 週 序文の実践 2

※後期日程にあわせて各週の予定を延ばしていく。

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

課題により適宜紹介する。

5. 準備学習

事前に課題を適宜紹介する。

6. 成績評価の方法

論文の進捗度	50点
論文の完成度	50点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	観光環境研究演習 I			担当教員：大谷 健太郎	
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1088	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	1~2	研 209	月曜 5 限・木曜 3 限

1. 授業の概要

本演習のテーマは「地域における望ましい観光のあり方」であり、地域振興やまちづくりの中で観光を位置づけ、政策立案ができる能力を身に付ける。そのためには、観光学はもちろん、基本的な経済学の知識が必要であり、統計分析ができる能力や政策科学の学習も必要である。さらに、問題を細微にわたって分析できることと、常に広い視野を持ってポイントを押さえることも要求される。

したがって、本演習では、理論と実践の意味連関を重視し、フィールドワークによって実践力を身に付け、単なるレポートや論文でない、「生きた」方策が論理的に組み上げられるように訓練する。また、論文の基本的なルールからはじまり、構成や引用、先行研究のまとめ方など修士論文に必要な基礎力もあわせて指導する。

2. 到達目標

修士論文執筆に必要な基礎力を身につけ、発表会に向けた研究計画および修士論文概要を作成すること。

3. 授業の計画と内容

第1週	演習の概要、オリエンテーションⅠ	第16週	中間報告に向けた確認
第2週	演習の概要、オリエンテーションⅡ	第17週	論文テーマ検討Ⅲ
第3週	論文報告のスケジュール確認	第18週	論文テーマ検討Ⅳ
第4週	研究計画確認	第19週	フィールドワーク計画Ⅰ
第5週	論文テーマ検討Ⅰ	第20週	フィールドワーク計画Ⅱ
第6週	論文テーマ検討Ⅱ	第21週	フィールドワーク計画Ⅲ
第7週	研究計画の作成方法指導	第22週	フィールドワーク計画Ⅳ
第8週	研究計画の作成Ⅰ	第23週	一次資料の扱い方
第9週	研究計画の作成Ⅱ	第24週	統計分析Ⅰ
第10週	論文の書き方Ⅰ	第25週	統計分析Ⅱ
第11週	論文の書き方Ⅱ	第26週	研究計画の修正Ⅰ
第12週	先行研究や関連研究の報告Ⅰ	第27週	研究計画の修正Ⅱ
第13週	先行研究や関連研究の報告Ⅱ	第28週	修士論文概要報告準備Ⅰ
第14週	タイトル発表会準備指導Ⅰ	第29週	修士論文概要報告準備Ⅱ
第15週	タイトル発表会準備指導Ⅱ	第30週	修士論文概要報告準備Ⅲ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて論文や書籍などで対応する。

【参考文献】

酒井聡樹 (2006) 『これから論文を書く若者のために』 大改訂増補版、共立出版、2,808 円。

土居英二編 (2009) 『はじめよう観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営 (NPM) の実践—』 日本評論社、3,024 円。

宮嶋勝 (1990) 『公共政策論』 学陽書房、1,500 円。

佐野亘 (2010) 『公共政策規範』 ミネルヴァ書房、3,500 円、など、その他、講義中に紹介する。

5. 準備学習

周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。観光政策関連または各自研究テーマに関する論文（英語、日本語）を精読し要約しておく。

6. 成績評価の方法

- ・活動状況（ディスカッション、参加積極性など） 40点（欠席6回以上は対象外）
- ・修士論文、研究の内容 30点
- ・プレゼンテーション 30点 論文形式（特定テーマ）で発表

・合計 100点

7. 履修の条件

観光学および経済学、政策科学などの知識を有すること。学部において観光開発論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	観光環境研究演習Ⅱ			担当教員：新垣 裕治	
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar Ⅱ			メールアドレス：y.arakaki@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1081	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	3	研 202	火(4時限)・木(2時限)

1. 授業の概要

同演習Ⅰで行ってきた内容を充実発展させ修士論文としてまとめることを目的として行われる。

2. 到達目標

エコツーリズムの現状について理解を深め、修論としてまとめ上げる。

3. 授業の計画と内容

【前期】

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週～7 週 調査・研究実施及びまとめ（データの整理分析等）
- 第 8 週 前期中間まとめ・発表研
- 第 9 週～14 週 調査・研究実施及びまとめ（データの整理分析等）
- 第 15 週 前期末まとめ・発表研（この段階で殆どの調査・研究は終了していること）

【後期】

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週～10 週 修士論文作成
- 第 11 週 後期中間まとめ・発表研（この段階で論文は殆ど完成していること）
- 第 12 週～15 週 最終発表のスライド作成等

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

- 「エコツーリズム さあ、はじめよう！」日本交通公社 1500 円
- 「地域からのエコツーリズム」学芸出版 「エコツーリズム教本」平凡社
- 「エコツーリズムの世紀へ」日本エコツーリズム協会
- 「Ecotourism A practical guide for rural communities」Land Links 等

5. 準備学習

参考文献等を読む。沖縄に関することが研究対象になるので、特に、沖縄の事情については精通しておく。

6. 成績評価の方法

研究発表：60 点

活動状況（課題への取組の積極性）：40 点

*2/3 以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。

7. 履修の条件

「エコツーリズム特論」及び同演習Ⅰを受講済みであること。

8. その他

特になし

科目名	観光環境研究演習Ⅱ			担当教員：李 鎮榮	
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar II			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	5	研 213	火・金 15:00-17:00

1. 授業の概要

論文の書き方はもちろん、論文調のフォーマルな文の書き方について指導していく。演習なので「論文生産能力」を高めていく。

2. 到達目標

論文生産能力を養ってもらう。

3. 授業の計画と内容

第 1 週 演習の概要・オリエンテーション

第 2 週 序文と本文の章立て 1

第 3 週 序文と本文の章立て 2

第 4 週 本論の構成と実践 1

第 5 週 本論の構成と実践 2

第 6 週 本論の構成と実践 3

第 7 週 本論作成と註の例 1

第 8 週 本論作成と註の例 2

第 9 週 本論作成と註の実践 1

第 10 週 本論作成と註の実践 2

第 11 週 修論中間発表練習 1

第 12 週 修論中間発表練習 2

第 13 週 本論ドラフト 1 (後期は完成と発表練習)

第 14 週 本論ドラフト 2 (後期は完成と発表練習)

第 15 週 本論ドラフト 3 (後期は完成と発表練習)

**後期日程にあわせて各週の予定を延ばしていく。

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

課題により適宜紹介する。

5. 準備学習

事前に課題を適宜紹介する。

6. 成績評価の方法

論文の進捗度 50点

論文の完成度 50点

合計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	観光環境研究演習Ⅱ			担当教員：大谷 健太郎																																																																					
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar II			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1088																																																																					
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																																				
4	2	通年	1～2	研 209	月曜 5 限・木曜 3 限																																																																				
<p>1. 授業の概要</p> <p>演習Ⅰに引き続き、同様のテーマで修士論文を執筆する。演習Ⅰで得た内容を発展させ修士論文にまとめ上げることを最終的な目標とする。</p> <p>また、修士論文の途中経過をまとめ、学会発表などに投稿する論文の指導も併せて行い、論文に必要な基礎力もあわせて指導する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士論文執筆に必要な基礎力を身につけ、学会発表論文および修士論文を作成すること。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 週</td> <td>オリエンテーションⅠ</td> <td>第 1 6 週</td> <td>研究計画再検討Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>オリエンテーションⅡ</td> <td>第 1 7 週</td> <td>研究計画再検討Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>修士論文のスケジュール確認</td> <td>第 1 8 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅣ</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>研究計画再検討Ⅰ</td> <td>第 1 9 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅤ</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>研究計画再検討Ⅱ</td> <td>第 2 0 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅥ</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅠ</td> <td>第 2 1 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅦ</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅡ</td> <td>第 2 2 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅧ</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅢ</td> <td>第 2 3 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅨ</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>フィールドワーク計画Ⅰ</td> <td>第 2 4 週</td> <td>修士論文の作成と読み合わせⅩ</td> </tr> <tr> <td>第 1 0 週</td> <td>フィールドワーク計画Ⅱ</td> <td>第 2 5 週</td> <td>修士論文の完成、確認</td> </tr> <tr> <td>第 1 1 週</td> <td>フィールドワーク計画Ⅲ</td> <td>第 2 6 週</td> <td>修士論文最終報告準備Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第 1 2 週</td> <td>進捗状況の確認と指導</td> <td>第 2 7 週</td> <td>修士論文最終報告準備Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第 1 3 週</td> <td>中間発表準備および指導Ⅰ</td> <td>第 2 8 週</td> <td>修士論文最終報告準備Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>第 1 4 週</td> <td>中間発表準備および指導Ⅱ</td> <td>第 2 9 週</td> <td>演習内修士論文発表</td> </tr> <tr> <td>第 1 5 週</td> <td>中間発表準備および指導Ⅲ</td> <td>第 3 0 週</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>4. テキスト</p> <p>必要に応じて論文や書籍などで対応する。</p> <p>各自のテーマにあわせた論文や書籍などを使用する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。観光政策関連または各自研究テーマに関する論文(英語、日本語)を精読し要約しておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)</td> <td>20点 (欠席6回以上は対象外)</td> </tr> <tr> <td>・修士論文、研究の内容</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>・プレゼンテーション</td> <td>10点 論文形式(特定テーマ)で発表</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>演習Ⅰを履修していること。演習Ⅰと同様に、観光学および経済学、政策科学などの知識を有すること。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						第 1 週	オリエンテーションⅠ	第 1 6 週	研究計画再検討Ⅲ	第 2 週	オリエンテーションⅡ	第 1 7 週	研究計画再検討Ⅳ	第 3 週	修士論文のスケジュール確認	第 1 8 週	修士論文の作成と読み合わせⅣ	第 4 週	研究計画再検討Ⅰ	第 1 9 週	修士論文の作成と読み合わせⅤ	第 5 週	研究計画再検討Ⅱ	第 2 0 週	修士論文の作成と読み合わせⅥ	第 6 週	修士論文の作成と読み合わせⅠ	第 2 1 週	修士論文の作成と読み合わせⅦ	第 7 週	修士論文の作成と読み合わせⅡ	第 2 2 週	修士論文の作成と読み合わせⅧ	第 8 週	修士論文の作成と読み合わせⅢ	第 2 3 週	修士論文の作成と読み合わせⅨ	第 9 週	フィールドワーク計画Ⅰ	第 2 4 週	修士論文の作成と読み合わせⅩ	第 1 0 週	フィールドワーク計画Ⅱ	第 2 5 週	修士論文の完成、確認	第 1 1 週	フィールドワーク計画Ⅲ	第 2 6 週	修士論文最終報告準備Ⅰ	第 1 2 週	進捗状況の確認と指導	第 2 7 週	修士論文最終報告準備Ⅱ	第 1 3 週	中間発表準備および指導Ⅰ	第 2 8 週	修士論文最終報告準備Ⅲ	第 1 4 週	中間発表準備および指導Ⅱ	第 2 9 週	演習内修士論文発表	第 1 5 週	中間発表準備および指導Ⅲ	第 3 0 週	まとめ	・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)	20点 (欠席6回以上は対象外)	・修士論文、研究の内容	70点	・プレゼンテーション	10点 論文形式(特定テーマ)で発表	・合計	100点
第 1 週	オリエンテーションⅠ	第 1 6 週	研究計画再検討Ⅲ																																																																						
第 2 週	オリエンテーションⅡ	第 1 7 週	研究計画再検討Ⅳ																																																																						
第 3 週	修士論文のスケジュール確認	第 1 8 週	修士論文の作成と読み合わせⅣ																																																																						
第 4 週	研究計画再検討Ⅰ	第 1 9 週	修士論文の作成と読み合わせⅤ																																																																						
第 5 週	研究計画再検討Ⅱ	第 2 0 週	修士論文の作成と読み合わせⅥ																																																																						
第 6 週	修士論文の作成と読み合わせⅠ	第 2 1 週	修士論文の作成と読み合わせⅦ																																																																						
第 7 週	修士論文の作成と読み合わせⅡ	第 2 2 週	修士論文の作成と読み合わせⅧ																																																																						
第 8 週	修士論文の作成と読み合わせⅢ	第 2 3 週	修士論文の作成と読み合わせⅨ																																																																						
第 9 週	フィールドワーク計画Ⅰ	第 2 4 週	修士論文の作成と読み合わせⅩ																																																																						
第 1 0 週	フィールドワーク計画Ⅱ	第 2 5 週	修士論文の完成、確認																																																																						
第 1 1 週	フィールドワーク計画Ⅲ	第 2 6 週	修士論文最終報告準備Ⅰ																																																																						
第 1 2 週	進捗状況の確認と指導	第 2 7 週	修士論文最終報告準備Ⅱ																																																																						
第 1 3 週	中間発表準備および指導Ⅰ	第 2 8 週	修士論文最終報告準備Ⅲ																																																																						
第 1 4 週	中間発表準備および指導Ⅱ	第 2 9 週	演習内修士論文発表																																																																						
第 1 5 週	中間発表準備および指導Ⅲ	第 3 0 週	まとめ																																																																						
・活動状況(ディスカッション、参加積極性など)	20点 (欠席6回以上は対象外)																																																																								
・修士論文、研究の内容	70点																																																																								
・プレゼンテーション	10点 論文形式(特定テーマ)で発表																																																																								
・合計	100点																																																																								

科目名	観光開発特論			担当教員：大谷 健太郎	
科目名(英語)	Tourism Development & Management			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1088	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 209	月曜 5 限、木曜 3 限

1. 授業の概要

観光開発は、地域振興を目的とした観光政策であるので、本講義では公共の利益を重視した公共政策的アプローチを採用する。したがって、観光開発の目的を社会的厚生を最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域の関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。

本講義では、まず、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。その後、方法論として観光開発の計画評価に必要な社会的費用便益分析や多基準分析、地域計画実践の際の需要予測手法や多変量解析手法などについての考え方を説明し、具体的事例を用いながら評価方法の技術的側面の理解をめざす。

2. 到達目標

観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響を分析し、望ましい観光開発の理念を理解すること。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 観光開発に関わる基礎知識 (1) -観光・リゾート開発と観光地開発
- 第 3 週 観光開発に関わる基礎知識 (2) -観光資源と観光施設
- 第 4 週 観光開発に関わる基礎知識 (3) -社会的、文化的インパクト① (経済効果)
- 第 5 週 観光開発に関わる基礎知識 (4) -社会的、文化的インパクト② (生活の質への影響)
- 第 6 週 観光需要と需要予測、入込と月別変動、観光需要の予測手法
- 第 7 週 プレゼンテーション (観光開発関連分野における論文精読など)
- 第 8 週 観光開発と社会資本の整備 (1) -観光交通の特性
- 第 9 週 観光開発と社会資本の整備 (2) -観光交通政策
- 第 10 週 観光開発の目標設定と計画策定
- 第 11 週 開発計画の評価手法 (1) プロジェクトの評価と費用便益・費用対効果分析
- 第 12 週 開発計画の評価手法 (2) 環境の経済的評価と旅行費用法、仮想市場法
- 第 13 週 海洋リゾート、温泉、文化観光、エコツーリズムの開発事例
- 第 14 週 プレゼンテーション (各自研究分野における論文精読など)
- 第 15 週 観光開発の課題と方向性-望ましい観光と理念 (沖縄県を中心として)

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講義毎に資料を配布する。

【参考文献】

羽田耕治監修 (2008) 『地域振興と観光ビジネス』 ジェイティービー能力開発、佐藤俊雄 (2009) 『現代観光事業論-地域経営の視点からの考察-』 同友館、(社) 日本観光協会 (1983) 『観光計画の手法』 日本観光協会、尾家建生・金井萬造 (2008) 『これでわかる！ 着地型観光-地域が主役のツーリズム』 学芸出版社、藤井聡 (2008) 『土木計画学-公共選択の社会科学』 学芸出版社、藤野公孝・高橋一夫編著 (2014) 『CSV 観光ビジネス-地域とともに価値をつくる-』 学芸出版社。

Ge, C. Y. (1996) *Resort Development and Management*, Educational Institute of the Amer Hotel.

Hall, C. M. (2008) *Tourism Planning: Policies, Processes & Relationships*, Prentice Hall.

Mason, P (2008) *Tourism Impacts, Planning and Management*, Butterworth-Heinemann.

5. 準備学習

周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。観光開発関連または各自研究テーマに関する論文 (英語、日本語) を精読し要約しておく。

6. 評価方法

- ・活動状況 (ディスカッション、参加積極性など) 40 点 欠席 6 回以上は評価対象外
- ・レポート (1 回予定、演習課題) 30 点
- ・プレゼンテーション 30 点 論文形式 (特定テーマ) で発表
- ・合計 100 点

7. 履修の条件

学部において観光開発論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。

科目名	観光政策特論			担当教員：大谷 健太郎	
科目名(英語)	Policy Science for Tourism			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1088	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 209	月曜 5 限、木曜 3 限

1. 授業の概要

近年、観光基本法を全面的に改正し、インバウンド・ツーリズムの推進や地域活性化などをキーワードにして観光立国推進基本法が施行された。観光による地域活性化の目的は、国および地域の魅力増大によって来訪者が増加し、観光の地域経済的社会的効果を最大化することであり、その効果を予測および検証する政策評価の過程が重要である。

本講義では、第一に国内外における観光政策立案方法と事例を概観する。その後、政策立案に関わる事前評価および政策実行の効果に関わる事後評価の政策マネジメントサイクルを理解し、地域の活性化を目的とした観光政策の評価手法の講義を行う。

2. 到達目標

観光政策に関する政策科学アプローチの方法を理解し、政策研究および政策評価の基礎的分析手法の習得をめざす。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 観光開発と観光振興、地域政策について、観光の経済的効果および社会的効果
- 第 3 週 観光政策の検証とその実効性、期待される効果—観光基本法、観光立国推進基本法
- 第 4 週 観光立国推進基本法における政策展開—具体的内容と政策目的
- 第 5 週 地域の観光政策の検証—沖縄県観光振興計画、三重県観光振興プランなど
- 第 6 週 プレゼンテーション（観光政策関連分野における論文精読など）
- 第 7 週 政策マネジメントサイクル①—政策立案と事前評価
- 第 8 週 政策マネジメントサイクル②—効果の測定と事後評価
- 第 9 週 事前評価①—価値基準と客観性
- 第 10 週 事前評価②—需要予測、住民意向調査と地域の将来像
- 第 11 週 事後評価—アウトプットとアウトカム業績測定と費用対効果分析
- 第 12 週 観光政策評価①—社会調査と結果の分析、観光地魅力度の測定（因子分析、AHP など）
- 第 13 週 観光政策評価②—施設・基盤整備計画（費用便益分析、便益価分析など）
- 第 14 週 観光政策評価③—観光政策の事後評価（達成度、総合評価など）
- 第 15 週 プレゼンテーション（各自研究分野における論文精読など）

4. テキスト

宮嶋勝（1990）『公共政策論』学陽書房、1,500 円。講義毎の資料も配布する。

参考書文献

足立幸男（2009）『公共政策学とは何か』ミネルヴァ書房、相川哲夫・栗原伸一（2001）『政策評価手法論—農村地域のソフトシステム型計画における—』農林統計協会、室谷正裕（1998）『新時代の国内観光—魅力度評価の試み』運輸政策研究機構、寺前秀一（2006）『観光政策・制度入門』ぎょうせい、土居英二編（2009）『はじめよう観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営（NPM）の実践—』、山谷清志（2012）『政策評価』ミネルヴァ書房。

Hatry, H. P. (1999) *Performance Measurement: Getting Result*, The Urban Institute.

Levin, H. M. (1985) *Cost-Effectiveness: A Primer*, Sage.

5. 準備学習

周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。観光政策関連または各自研究テーマに関する論文（英語、日本語）を精読し要約しておく。

6. 評価方法

- ・活動状況（ディスカッション、参加積極性など） 40 点 欠席 6 回以上は評価対象外
- ・レポート（1 回予定、演習課題） 30 点
- ・プレゼンテーション 30 点 論文形式（特定テーマ）で発表
- ・合計 100 点

7. 履修の条件

学部において観光事業論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	島嶼開発特論			担当教員 :	
科目名(英語)	Special Lectures on Island Economies			メールアドレス :	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2				

Course Goals and Methods :

Welcome to my special lecture on island sustainability focusing on islands of Okinawa. Upon completing this class, students should be able to learn various concepts and tools or model cases to analyze the current issues facing island sustainability such as socio-economic development and environmental conservation, work-life balance, sustainable community, sustainable agriculture, sustainable tourism, networking and human resources development and sustainable policies and management. Learn actual methods and practices of sustainability through visiting local communities, industry, typical tourism sites and public authorities. Construct your own sustainable models or arguments based on data / interviews/case studies. You are requested to present your field research findings and in-depth analysis toward the end of class. You are requested to submit a quality term paper at the end of this semester. This course aims at three Es, namely, **Empowerment, encouragement, and Enjoyment.**

1. Course Goals :

Upon completing this course, students should be able to conduct independent research on the subject.

2. Required and Optional Texts:

Hiroshi Kakazu, *Island Sustainability: Challenges and Opportunities for the Pacific Islands in a Globalized World*, Canada: Trafford Publishing, 2009.

Hiroshi Kakazu, *Sustainable Development of Small Island Economies*, Boulder: Westview Press, 1994.

Copies of these two books are reserved at the Meio library. You will be assigned reading materials from the above books and from other sources related to the subject. Reading materials will also be posted on my MEIO MEMBERS SNS site. You are expected to read these materials before your presence at my class.

3. Course Contents:

- Week 1-Week 2: What is Nissology (study of islands)? Definitions, characteristics, and Sustainability
- Week 3 -Week 4: Approach for Island Development, Global Issues and Island Societies
- Week 5-Week 6: Networking Island Societies
- Week 7-Week 8: Sustainable Development of Okinawa's Small Islands
- Week 9-Week 10: Sustainable Island Community and Culture
- Week 11-Week 12: Challenges for Sustainable Development
- Week 13-Week 15: Class Presentations based on Field Studies

4. Grading Policy Based on 100 Points :

Class Participation, including class activities and discussion (50point)

Presentation and Term Paper (50point). Otherwise, Meio University's general grading rules will be applied.

Term papers must be submitted one week after your presentations through email or in hard copy in my office. Failure to submit by the deadline will constitute late submission. Late papers will be penalized 5 points for each

5. Class Rules : You are expected to abide by your university rules and academic standard. Particularly you should aware of the university Policy of Academic Honesty.

科目名	島嶼文化特論			担当教員：李 鎮榮							
科目名(英語)	Island Cultures			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	後期	5	研 213	火・金 15:00-17:00						
<p>1. 授業の概要</p> <p>日本の周辺に位置する沖縄県のような島嶼社会の場合、中央に対する求心力と「外」に対する遠心力の両方の力が作用している。島嶼社会は規範文化から「周辺の位置」に在るだけでなく、市場経済においても中央の支配を受けやすい。沖縄のような島嶼群からなる社会が持つローカリティー性について学習し、どのような開発の仕方が望ましいのか考察していく。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>島嶼社会の周辺性の特徴を理解することにより、島嶼社会を論じる上で、より生産的な思考ができるようになってもらいたい。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 自己紹介と方針、予備知識のチェック、発表の分担者を定める。 第 2 週 「ではの杜」のロジック 第 3 週 「島嶼」とは。島嶼社会の定義と課題 第 4 週 倫理的消費・開発 第 5 週 中心と周辺：遠心性と求心性 第 6 週 資本と貧困：GDP と社会的共通資本 第 7 週 開発しない開発 第 8 週 境界性と境界理論 第 9 週 Localization と里山資本主義 第 10 週 成功事例研究；タンザニア 第 11 週 国境ビジネス事例研究；中ソ 第 12 週 国境ビジネス事例研究：多民族国家の一国二制度 第 13 週 開発と破壊 第 14 週 従属経済の脱皮を目指して 第 15 週 総括</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 矢野暢, 『国際化の意味』, NHK ブックス Helen Norberg-Hodge, <i>Joint local is the answer</i>、Ancient Future 藻谷浩介, 『里山資本主義』, NHK その他、授業中適宜提供する。</p> <p>【参考文献】 課題により適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に課題を適宜紹介する。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>発表内容と授業への貢献度</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>レポート(発表など)</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						発表内容と授業への貢献度	50点	レポート(発表など)	50点	合計	100点
発表内容と授業への貢献度	50点										
レポート(発表など)	50点										
合計	100点										

科目名	異文化接触特論			担当教員：李 鎮榮							
科目名(英語)	Cultures in Contact			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1091							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	後期	5	研 213	火・金 15:00-17:00						
<p>1. 授業の概要</p> <p>構造主義の観点から、「他者」について概観し、異質なものととの接触により起きる文化変容と受講生の日常と「異化」について講義する。また、「他者との接触」を通して人起こりうる化学反応について、沖縄の問題と絡めて考察する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>個人や社会の発展とはつまるところ「異化」能力に左右される側面を理解してもらい、沖縄の観光政策立案につなげてもらいたい。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 自己紹介と方針, 予備知識のチェック, 発表の分担者を決める。</p> <p>第 2 週 文化(言語)人類学の考え方</p> <p>第 3 週 多文化主義・多言語主義の現在</p> <p>第 4 週 文化の神話を超えて</p> <p>第 5 週 カナダの多文化主義</p> <p>第 6 週 フランスの多文化主義とケベックの選択</p> <p>第 7 週 北部ケベックの先住民</p> <p>第 8 週 カナダにおける先住民と先住民権</p> <p>第 9 週 多文化国家オーストラリアの誕生とその現在</p> <p>第 10 週 多文化主義と法の役割</p> <p>第 11 週 先住権の行方</p> <p>第 12 週 文化を創造する人々 Stranger & Outsider</p> <p>第 13 週 非英語圏からの移住者にとっての課程と世代間変容</p> <p>第 14 週 ポスト・エスニック・マルチカルチュラリズム</p> <p>第 15 週 総括</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <p>矢野暢, 『国際化の意味』, NHK ブックス</p> <p>西川長夫他, 『多文化主義・多言語主義の現在』, 人文書院</p> <p>ミシェル・ヴィヴィオルカ, 『差異』, バラン書店</p> <p>【参考文献】</p> <p>課題により適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>事前に課題を適宜紹介する。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>発表内容と授業への貢献度</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>レポート(発表など)</td> <td>50点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						発表内容と授業への貢献度	50点	レポート(発表など)	50点	合計	100点
発表内容と授業への貢献度	50点										
レポート(発表など)	50点										
合計	100点										

科目名	ホテル実務特論			担当教員：黒江 浩紹 (非常勤講師)	
科目名(英語)	Hotel Management			メールアドレス：curoe@bell.ocn.ne.jp	
				研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

沖縄の観光業の発展と、その中核であるホテル業がどのように変化し発展してきたかを学びながら、グローバルな視点から、優位性、問題点を大学院生と論じていきたい。

その中で、ホテル業のマネジメントスキル、オペレーションスキルを講義していきたい。

2. 到達目標

マネジメントスキルの基本テーマ、オペレーションスキルの概論を身につけること

3. 授業の計画と内容

第1週 ガイダンス

第2週 復帰前から海洋博までの沖縄の観光とホテルの推移

第3週 海洋博から1995年までの沖縄の観光とホテルの推移

第4週 1995年から2007年までと、2007年から現在までの沖縄の観光とホテルの推移

第5週 ホテルマーケティング1

第6週 ホテルマーケティング2

第7週 ホテルマーケティング3

第8週 ホテルマーケティング4

第9週 ホテルマーケティング5

第10週 ホテルマーケティング6

第11週 ホテルファイナンス1

第12週 ホテルファイナンス2

第13週 ホテルサービス1

第14週 ホテルサービス2

第15週 まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回授業内容のレジメを配布

【参考文献】

サービスマーケティング原理 クリスファーラブロック+ローレンライト著 (白桃書房)

5. 準備学習

授業計画と内容に記載されている内容を予習しておくこと。

6. 成績評価の方法

調査レポート 30点

授業内ディスカッション 30点

最終レポート 40点

合計 100点

7. 履修の条件

観光産業、ホテル産業に興味のある人が望ましい

8. その他

特になし。

科目名	エコツーリズム特論			担当教員：新垣 裕治	
科目名(英語)	Ecotourism			メールアドレス：y.arakaki@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	研 202	火 (4時限)・木 (2時限)
研究室番号：0980-51-1081					

2. 授業の概要

エコツーリズムとは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り、学び、自然・文化の保護・保全と地域振興に貢献する観光形態」と理解される。エコツーリズムは従来の観光の反省に立って考えられた観光の一形態であり、これまでの観光のイメージを大きく変える可能性を持っている。

本講義では、エコツーリズムの概念、ツアー事例、エコツーリズム資源と構成要素等を通してエコツーリズムへの現状についての理解を深め、これを基にエコツーリズムの課題について考察していく。

2. 到達目標

エコツーリズムについての理解を深めるとともに、観光における環境の重要性について理解できる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 講義概要・評価方法他について
- 第 2 週 沖縄県の観光の現状について
- 第 3 週 エコツーリズムとは (1)
- 第 4 週 エコツーリズムとは (2)
- 第 5 週 海外のエコツーリズム事情 (1)
- 第 6 週 海外のエコツーリズム事情 (2)
- 第 7 週 エコツーリズムへの取り組み (1)
- 第 8 週 エコツーリズムへの取り組み (2)
- 第 9 週 エコツーリズムとルール
- 第10週 エコツーリストとは
- 第11週 エコツアーと人材育成 (1)
- 第12週 エコツアーと人材育成 (2)
- 第13週 エコツーリズムと持続可能性 (1)
- 第14週 エコツーリズムと持続可能性 (2)
- 第15週 エコツーリズムの課題 (まとめ)
- 第16週 試験

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

- 「エコツーリズム さあ、はじめよう！」日本交通公社 1500 円
- 「地域からのエコツーリズム」学芸出版 「エコツーリズム教本」平凡社
- 「エコツーリズムの世紀へ」日本エコツーリズム協会 等

5. 準備学習

参考文献等を読む。また、講義では沖縄の事情について多く語られるので、日常的に沖縄県の観光やエコツーリズムの現状について観光要覧やメディアを通し情報収集をしておく。

6. 成績評価の方法：下記のとおり

試験 80 点, レポート 20 点

*2/3 以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	観光市場分析特論			担当教員：朴 在徳	
科目名(英語)	Marketing Analysis in Tourism			メールアドレス：j.park@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1085	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	5	研 206	木：18:10～19:10

1. 授業の概要

本講義では、観光市場分析のために必要な基礎理論として、行動科学や経営学等のマーケティング基礎知識と市場分析の諸方法を理解し、観光・ホスピタリティ産業やリゾートなどの市場分析へ応用するための方法を学ぶ。日本における国内観光と海外観光に関する観光市場の現状と動向、観光産業と観光関連産業や観光地などの動向等、統計データに解説を加えながら、その分析手法について理解する。

2. 到達目標

- ・観光市場分析の基礎知識であるマーケティング調査・分析の基礎理論を理解し、研究で実践できる能力を習得する。
- ・特に、沖縄観光の現状と課題に対して、観光市場動向の現状分析を概論的に理解する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション、観光市場分析とは
- 第 2 週 観光市場と市場分析の方法
- 第 3 週 国内観光の市場分析
- 第 4 週 海外観光の市場分析
- 第 5 週 訪日外国人観光の動向
- 第 6 週 沖縄を訪れる観光客の現状
- 第 7 週 観光市場分析 1—国内—
- 第 8 週 観光市場分析 2—海外—
- 第 9 週 観光市場分析 3—沖縄—
- 第 10 週 観光産業データによる市場分析
- 第 11 週 観光関連産業データの市場分析
- 第 12 週 観光地データによる市場分析
- 第 13 週 リゾートデータによる市場分析
- 第 14 週 ホスピタリティ産業による市場分析
- 第 15 週 まとめ

4. テキスト・参考文献

- 「観光白書」内閣府
- 「観光要覧」沖縄県
- 「JTB レポート—日本人の海外旅行の実態—」(株) JTB
- 「観光の実態と志向」(社) 日本観光協会
- Stephen L.J. Smith., Tourism Analysis : A Handbook ,Longman House 2001 年

5. 準備学習

- ・市場分析用の統計データは各自必ず調査すること。

6. 成績評価の方法

レポート	50%
課題提出	50%
合計	100%

7. 履修の条件

学部の観光・マーケティングなどの関連科目の履修が望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	観光資源特論			担当教員：許 点淑	
科目名(英語)	Tourism Resources			メールアドレス：HEO@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	研 201	火・金 3限 (13:00~14:30)

1. 授業の概要

観光資源には自然景観などの自然資源と文化的・社会的資源の人文資源に大別できる。本講義は主として後者に「文化」の視点からスポットを当てる。有形・無形観光資源の歴史の変遷とそれを取り巻く社会変化を連動させながら、世界各地の事例から観光資源への人類学的意味づけを行なうものである。

2. 到達目標

文化が観光の中でどのように開発されかつ商品化されていくのかが理解できる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 観光資源と文化 (1)
- 第 3 週 観光資源と文化 (2)
- 第 4 週 戦跡と観光 (1)
- 第 5 週 戦跡と観光 (2)
- 第 6 週 植民地と観光 (1)
- 第 7 週 植民地と観光 (2)
- 第 8 週 エスニック文化と観光：中国の事例を中心に (1)
- 第 9 週 エスニック文化と観光：中国の事例を中心に (2)
- 第10週 観光地イメージの形成：商品としてのハワイ (1)
- 第11週 観光地イメージの形成：商品としてのハワイ (2)
- 第12週 文化イメージの受容と価値の生産 (1)
- 第13週 文化イメージの受容と価値の生産 (2)
- 第14週 考古学遺跡と観光：カナダの事例
- 第15週 まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・資料は随時配布する。

【参考文献】

- ・江口信清 1998 『観光と権力—カリブ海地域の観光現象—』 多賀出版
- ・神崎宣武 1990 『観光民俗学への旅』 河出書房新社
- ・橋本和也 1999 『観光人類学の戦略—文化の売り方、売られ方』 世界思想社
- ・橋本和也・佐藤幸男編 2003 『観光開発と文化』 世界思想社
- ・石森秀三編 1996 『観光の二〇世紀—二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容3』 ドメス出版
- ・スミス、バーレン・L. 編著、三村浩史監訳 1991 『観光・リゾート開発の人類学』 勁草書房
- ・山下晋司 1999 『バリー観光人類学のレッスン』 東京大学出版会
- ・吉川彰・松田素二編 2003 『観光と環境の社会学』 新曜社
- ・吉田春生 2003 『エコツーリズムとマス・ツーリズム—現代観光の象徴』

5. 準備学習

配布資料を用いて、予習・復習を行うこと。

6. 成績評価の方法

- | | |
|--------------------|------|
| ・活動状況 (授業への参加の積極性) | 30点 |
| ・レポート | 70点 |
| ・合計 | 100点 |

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

積極的に研究活動に取り組むこと。

科目名	島嶼生態学特論			担当教員：新垣 裕治	
科目名(英語)	Island Ecology			メールアドレス：arakaki@mail.meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1081	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	研 202	火 (4 時限)・木 (2 時限)
<p>1. 講義内容</p> <p>島に棲息する生物と環境の関連、あるいは生物同士の関わりを生物の適応・進化・多様性などの観点から扱う分野が島嶼生態学である。本講義では、島嶼県である沖縄を島嶼生態学の観点から捉え、生物・自然・環境等の特徴を明らかにしていく。また、これら特徴は沖縄の観光資源としても極めて重要であるので、観光との関連についても言及を試みる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>島嶼環境の環境的特徴を生物学的な側面から理解できるようにする。</p> <p>3. 講義予定</p> <p>第 1 週 講義概要・評価方法他について 第 2 週 琉球列島の生い立ち 第 3 週 サンゴ礁地形 第 4 週 サンゴ・サンゴ礁とは 第 5 週 サンゴ礁の生物たち (1) 第 6 週 サンゴ礁の生物たち (2) 第 7 週 マングローブとは 第 8 週 マングローブの生物たち (1) 第 9 週 マングローブの生物たち (2) 第 10 週 沖縄の川と生物たち (1) 第 11 週 沖縄の川と生物たち (2) 第 12 週 沖縄の森と生物たち (1) 第 13 週 沖縄の森と生物たち (2) 第 14 週 外来種をめぐる問題 (1) 第 15 週 外来種をめぐる問題 (2) 第 16 週 試験</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 特に指定しない。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池原貞雄・加藤祐三 編著 1997 『沖縄の自然を知る』 築地書館 ・西平守孝 編著 1991 『沖縄のサンゴ礁』 沖縄環境科学センター ・中村武久・中須賀常雄 1998 『マングローブ入門―海に生える緑の森―』 めこん ・安間繁樹 2001 『琉球列島―生物の多様性と列島のおいたち―』 東海大学出版会 ・幸地良仁 1991 『沖縄の川魚』 沖縄出版 ・高原健二・当山昌直・小浜継雄・幸地良仁・知念盛俊・比嘉ヨシコ 1997 『沖縄の帰化動物―海をこえてきた生きものたち』 沖縄出版 <p>5. 準備学習</p> <p>参考文献等を読む。また、講義では沖縄の事情について多く語られるので、日常的に沖縄県の環境的（主に生物学的観点から）について情報収集をしておく。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>試験 80 点, レポート 20 点 *2/3 以上の出席が無ければ評価の対象にならないので要注意。</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	観光文化特論			担当教員：許 点淑							
科目名(英語)	Special Studies in Tourism and Culture			メールアドレス：HEO@meio-u.ac.jp							
				研究室電話番号：0980-51-1087							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1	後期	5	研 201	火・金 3限 (13:00~14:30)						
<p>1. 授業の概要</p> <p>本講義では、観光という人間行為の本質的なトピックを文化と関連づける研究成果に学びながら、前半では、観光と文化に関する理論的枠組みのディスカッションを中心に、後半では、世界の地域別事例研究から観光と文化の有機的動態を読み取っていくものである。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>観光における文化の商品化の課題と観光と周辺領域との関係性を構築することができる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション</p> <p>第 2 週 儀礼としての観光</p> <p>第 3 週 観光と巡礼</p> <p>第 4 週 観光の多様性</p> <p>第 5 週 観光文化と真正性 (1)</p> <p>第 6 週 観光文化と真正性 (2)</p> <p>第 7 週 ホストとゲスト</p> <p>第 8 週 贈与と観光 (1)</p> <p>第 9 週 贈与と観光 (2)</p> <p>第10週 地域文化と観光文化 (1)</p> <p>第11週 地域文化と観光文化 (2)</p> <p>第12週 文化の商品化 (1)</p> <p>第13週 文化の商品化 (2)</p> <p>第14週 バリ芸能の生成</p> <p>第15週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料は随時配布する (予定)。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青木保 1990 『「日本文化論」の変容』中央公論社 ・遠藤英樹・堀野正人編著 2004 『「観光のまなざし」の転回』春風社 ・永淵康之 1998 『バリ島』講談社 ・橋本和也 1999 『観光人類学の戦略—文化の売り方、売られ方』世界思想社 ・橋本和也・佐藤幸男編 2003 『観光開発と文化』世界思想社 ・前川啓治・梶原景昭他訳 1992 『創られた伝統』紀伊国屋書店 ・安村克己 2001 『観光 新時代をつくる社会現象』学文社 ・安村克己・塚本珪一・朝水宗彦編著 2001 『地域・観光・文化』嵯峨野書院 ・エドワード・M・ブルーナー 2007 『観光と文化 旅の民族誌』学文社 ・スミス、バーレン・L. 編著、三村浩史監訳 1991 『観光・リゾート開発の人類学』勁草書房 <p>5. 準備学習</p> <p>配布資料を用いて、予習・復習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table> <tr> <td>・活動状況 (授業への参加の積極性)</td> <td>30点</td> </tr> <tr> <td>・レポート</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>・合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						・活動状況 (授業への参加の積極性)	30点	・レポート	70点	・合計	100点
・活動状況 (授業への参加の積極性)	30点										
・レポート	70点										
・合計	100点										

科目名	観光調査法特論			担当教員：朴 在徳							
科目名(英語)	Tourism Analysis			メールアドレス：j.park@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1085							
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー						
2	1・2	前期	5	研 206	木：18:10～19:10						
<p>1. 授業の概要</p> <p>本講義では、観光データの解析のために必要な諸分析技法として、特に多変量解析(Multivariate Analysis)等の基礎知識を理解し、それをツールとして観光・ホスピタリティ研究分野へ応用するための方法を学ぶ。統計上の理論よりも、むしろ利用方法に慣れることを目的とする。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>受講者は各自の具体的な観光関連データをもとにコンピュータによる統計的解釈や調査分析を行う。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション、観光調査・分析とは</p> <p>第 2 週 観光調査・分析の方法について</p> <p>第 3 週 観光現象の測定、観光データの解釈方法</p> <p>第 4 週 観光分析の方法について—多変量解析—</p> <p>第 5 週 観光を予測する—観光データによる重回帰分析、回帰診断—</p> <p>第 6 週 観光需要予測の実際—数量化Ⅰ類—</p> <p>第 7 週 観光地の構造を簡潔にする—主成分分析 1—</p> <p>第 8 週 観光関連データによる実例—主成分分析 2—</p> <p>第 9 週 観光者の心理構造を探る—因子分析/数量化Ⅲ類—</p> <p>第 10 週 観光データによる実例—因子分析、数量化Ⅲ類—</p> <p>第 11 週 観光データの分析—数量化Ⅳ類、多次元尺度法—</p> <p>第 12 週 決定木、独立成分分析による観光関連データの分析</p> <p>第 13 週 自己組織化マップによるホスピタリティ情報の分析</p> <p>第 14 週 ニューラルネットワーク法による観光データの分析</p> <p>第 15 週 まとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>菅民郎著『Excel で学ぶ多変量解析入門』オーム社 2013 年</p> <p>田中豊・垂水共之著『統計解析ハンドブック (多変量解析)』共立出版 2001 年</p> <p>涌井良幸・涌井貞美著『図解でわかる共分散構造分析』日本実業出版社 2003 年</p> <p>樺山忠雄著『アナリティカル・マーケティング』創成社 2002 年</p> <p>Stephen L.J. Smith., Tourism Analysis : A Handbook ,Longman House 2001 年</p> <p>5. 準備学習</p> <p>テキストの付録に統計分析用の CD-ROM があるので必ず購入すること。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>課題提出</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>7. 履修の条件</p> <p>学群・学部の統計学、調査法などの関連科目の履修者を対象とする。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし</p>						レポート	50%	課題提出	50%	合計	100%
レポート	50%										
課題提出	50%										
合計	100%										